

第 1 章 はじめに

- 1 計画策定の趣旨・目的
- 2 計画の対象区域
- 3 計画の期間
- 4 計画の位置づけ



第1章 はじめに

1 計画策定の趣旨・目的

平成 28 年（2016 年）4 月 14 日及び 16 日に発生した平成 28 年熊本地震（以下、熊本地震という。）により、熊本城は特別史跡熊本城跡としての文化財並びに熊本城公園としての都市公園の両面から、全域的に甚大な被害を受けました。

その復旧には、長い歳月と多大な費用に加え、高い専門知識・技術・マンパワーを要することから、国県等の関係機関や関係団体との連携はもとより、市民・県民の皆様をはじめ、熊本城復旧を願う多くの力を結集して取り組んでいく必要があります。

また、その復旧にあたっては、文化財的価値の保全を基本としつつ、市民の憩いの場としての都市公園の早期復旧の観点、並びに文化財・都市公園が調和した重要な本市の観光資源としての早期再生を図る観点から、効率的・計画的な復旧と戦略的な公開・活用を進めていくことが重要です。

熊本城復旧基本計画は、平成 28 年（2016 年）12 月に熊本城復旧に向けた基本的な考え方や取り組むべき施策の方向性を定めた「熊本城復旧基本方針」（以下、基本方針という。）に基づき、石垣・建造物等をはじめ、便益施設・管理施設等を含む熊本城全体の復旧手順、耐震化等の工法の検討、復旧過程の公開及び継続的な復旧を支える体制づくりなど、復旧に係る具体的な方針や施策及び取り組みを体系的に定め、熊本城の効率的・計画的な復旧と戦略的な公開・活用を着実に進めていくために策定したものです。

そして、市民・県民・行政・関係機関・関係団体などの共有のもと、将来の礎づくりとしての熊本城復旧に一体的かつ継続的に取り組むとともに、100 年先の熊本城の姿を見据え、幕末期など往時の姿への復元の検討を通して、震災の記憶を次世代に確実に語り継いでいきます。



被災した熊本城

2 計画の対象区域

復旧基本計画の対象区域は、特別史跡熊本城跡の特別史跡区域（57.8ha）及び熊本城公園の都市計画公園区域（55.7ha）とします。

今後特別史跡の範囲が拡大した場合には、この部分も計画区域とします。

なお、計画策定後の現史跡指定区域については、第2章「2 熊本城の概要（4）史跡指定の変遷」に示します。

＜計画区域図＞



3 計画の期間

短期5年の最終年度の令和4年度（2022年度）における改定に伴い、復旧基本計画の期間は当初より15年延ばして2052年度までと設定しなします。

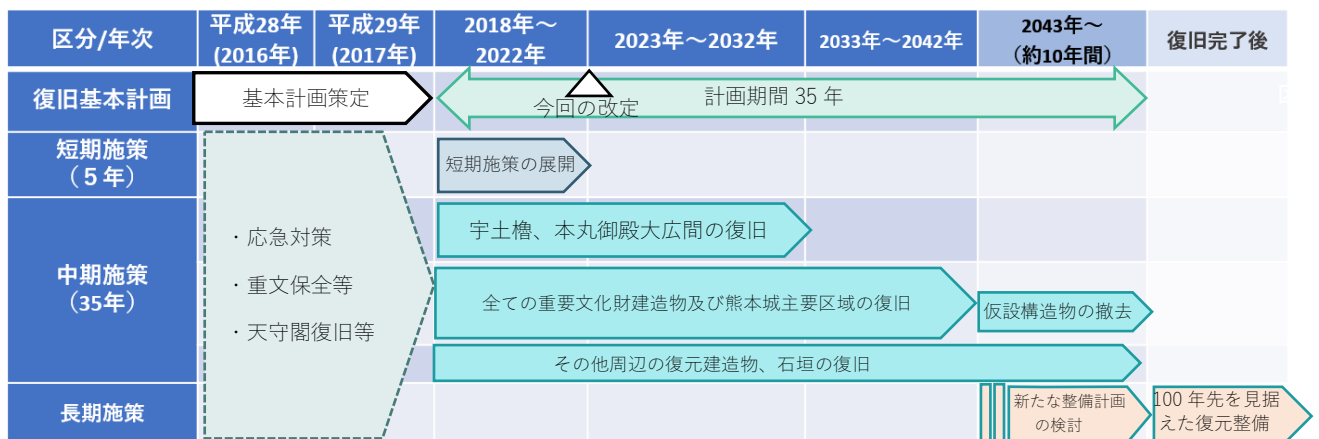
計画策定から最初の5年を短期、計画期間の終期までの35年間を中期と設定し、その後、100年先の将来までを長期として位置づけます。

宇土櫓、本丸御殿大広間の復旧が完了する15年目（2032年度）と、全ての重要文化財建造物や震災以前の有料区域を含む行幸坂より東の熊本城の主要区域の復旧が完了する25年目（2042年度）が大きな節目になります。26年目以降の10年間では、特別見学通路の撤去や主要区域以外の工事を行うとともに、復旧完了後に向けた新たな整備計画の検討を行います。

復旧完了までの期間については、短期5年間における実績を踏まえた必須工程の期間から設定していますが、今後、新たに得られる知見や社会・経済情勢、建設環境の変化などに順応させながら事業の進捗管理を行い、5年ごとに検証を実施するものとします。

復旧事業などの取り組みにおいて、短期までに完了したものを短期施策、短期以降の中期において完了させるものを中期施策、100年先の将来に向け計画期間終了後も続くものを長期施策として位置づけます。

＜計画期間設定の考え方＞

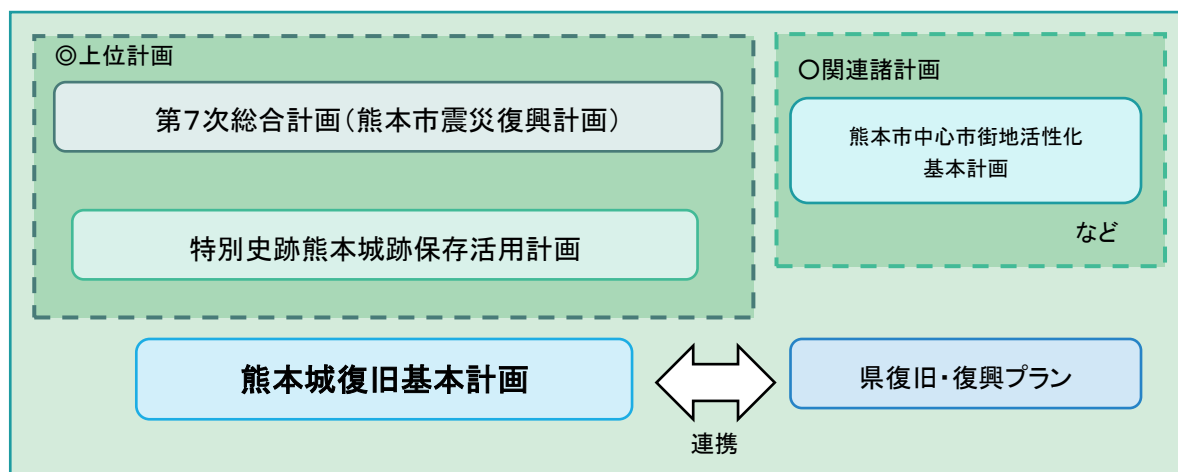


4 計画の位置づけ

復旧基本計画は、熊本地震からの復興に向けて熊本市第7次総合計画の前期基本計画の中核として策定した「熊本市震災復興計画」（平成28年度（2016年度）策定）と、熊本城の保存管理・防災・活用等の基本方針等を定めた「特別史跡熊本城跡保存活用計画」（平成29年度（2017年度）改訂）を上位計画とし、熊本城復旧のマスタープランとなるものです。

また、復旧基本計画は「熊本市中心市街地活性化基本計画」など本市の関連諸計画をはじめ、熊本県策定の「平成28年熊本地震からの復旧・復興プラン」など県全体の復興計画とも連携を図っていきます。

<復旧基本計画の位置付け>



<上位計画の概要>

○熊本市第7次総合計画・熊本市震災復興計画

熊本市第7次総合計画は、熊本市におけるまちづくりの基本指針であり、熊本市の様々な計画の最上位計画です。平成28年（2016年）3月に策定し、8年間の計画期間の中間年にあたる令和元年度に、熊本地震や社会経済情勢の変化などを踏まえ全体的に見直しを行いました。

熊本市震災復興計画は、市民・地域・行政が自然災害の脅威についての認識を共有したうえで、総力を挙げて早期の復旧を目指し、新しい熊本市の実現に向けて歩みを進めていくための基本的な考え方を示すとともに、取り組むべき主要な施策や具体的な取り組みを体系的にまとめ、熊本市の復旧・復興を着実に進めていくための計画です。復興重点プロジェクトのひとつとして、くまもとのシンボル「熊本城」復旧プロジェクトを掲げています。

なお、「熊本市震災復興計画」は平成31年度（2019年度）で終了しましたが、被災者の生活再建に向けたトータルケアなど残された課題については、熊本市第7次総合計画の後期基本計画（令和2年度（2020年度）～令和5年度（2023年度））に引き継がれています。

○特別史跡熊本城跡保存活用計画

「特別史跡熊本城跡保存活用計画」は、文化財としての熊本城跡の本質的な価値とそれらを構成する諸要素を再確認し、そのうえでより適切な保存・管理のあり方や現状変更などの取扱基準を定めるとともに、その価値を損なうことなく、多様な社会的要請に対応できる活用、整備の方向性を示す上位計画です。

保存活用計画では、「活用・整備」の現状と課題、方法などについて基本的考え方を示し、被災後の具体的な活用と整備（復旧復元）の方法について、復旧基本計画で示します。

第2章 熊本城の被害状況

- 1 熊本城の沿革
- 2 熊本城の概要
- 3 熊本城の被害状況
- 4 熊本城の復旧状況



第2章 熊本城の被害状況

1. 熊本城の沿革

熊本城は、肥後の大名として天正 16 年（1588 年）に入国した加藤清正によって築かれた城です。熊本城築城以前は、熊本平野を望む小高い丘状の土地で、茶臼山と呼ばれていました。この茶臼山には、古代あるいは中世の寺院（茶臼山廃寺）があったとされ、現在でも中世の板碑や五輪塔が城内の随所で見られます。

加藤清正が茶臼山に築城する以前の城は「隈本城」と呼ばれました。「隈本城」が文献に現れる最も古い記録は南北朝時代の 1377 年です。その後、隈本城には出田氏、鹿子木氏が入り、鹿子木氏の時代に千葉城（旧 NHK 熊本放送会館・旧日本たばこ産業（JT）熊本支店周辺）から古城（熊本県立第一高校付近）の位置に移ったといわれています。鹿子木氏の後には城氏が隈本城に入りますが、天正 15 年（1587 年）に豊臣秀吉が九州出兵に出陣すると、隈本城主だった城久基は降伏しました。

天正 16 年（1588 年）、佐々成政に代わって入城した加藤清正は、隈本城を石垣造りの城郭に改築しましたが、慶長 3 年（1598 年）、秀吉の死を契機に城の背後の茶臼山一帯を取り込んだ新たな城郭の建設を始めました。慶長 12 年（1607 年）、新城は完成し、これにあわせて「隈本」を「熊本」へ改めたとされています。この新城が現在見られる熊本城です。その後、寛永 9 年（1632 年）加藤氏の改易に伴って細川氏が豊前小倉より入国しました。細川氏の治世は明治維新まで続き、宝暦 4 年（1754 年）には二の丸に藩校時習館が創設されるなど、細川氏によって熊本城は維持管理されました。

明治維新を迎えると、熊本でも近代化政策のもと、明治 4 年（1871 年）に洋学校、翌年には医学校が古城に設置され、外国から招聘された教師らの住居も建築されました。また、明治 6 年（1873 年）に、熊本鎮台の本営が熊本城に置かれました。明治 10 年（1877 年）の西南戦争の際は主戦場の一つとなり、大小天守や本丸御殿などの本丸中心部の大半の建物が焼失しました。

その後、鎮台（陸軍）が城内主要地の管理を行い、明治 22 年（1889 年）の地震被害や老朽に伴う石垣・建物の修復を陸軍が行ってきましたが、大正末期になると民間からも城跡の保存・顕彰の声があがり、熊本城址保存会が組織され、昭和 2 年（1927 年）には宇土櫓の修復が行われました。

昭和 4 年（1929 年）の国宝保存法の成立によって、昭和 8 年（1933 年）に宇土櫓他 12 棟の建造物が国宝に、石垣のほとんどが国史跡に指定されました。その後、昭和 25 年（1950 年）に制定された文化財保護法によって国宝は重要文化財に名称変更され、昭和 30 年（1955 年）には史跡「熊本城跡」が特別史跡に指定されました。

戦後の昭和 23 年（1948 年）に熊本城の公園化計画が立てられ、昭和 35 年（1960 年）の大小天守の外観復元以降、建造物や石垣の保存修理・復元整備が行われていきました。平成 9 年（1997 年）には「熊本城復元整備計画」を策定し、西出丸一帯・飯田丸一帯を整備し、築城 400 年にあたる平成 19 年（2007 年）には、本丸御殿の中で最大の建物であった大広間棟・大台所棟とあわせて数寄屋棟の復元整備を行い、平成 26 年（2014 年）には馬具櫓の復元整備も行いました。

2. 熊本城の概要

今回の復旧基本計画の対象区域は第 1 章に示されていますが、現在の特別史跡熊本城跡の概要を示すに当り、「特別史跡熊本城跡保存活用計画」で分けられた地区区分との整合を図るため、本丸地区・二の丸地区・三の丸地区・古城地区・千葉城地区の区分に従って地区を表現しています。

(1) 石垣

熊本城の石垣は、延長約 8.7km、面積約 79,000 m²に及び、明治初期に解体撤去、改変された箇所はあるものの、そのほとんどは良好に保存され現在に至っていました。

加藤清正が肥後に入って最初に築いた石垣は、熊本城の前身である隈本城のもので、古城地区の現在の県立第一高校一带に良好に残存しています。加藤清正は、新城を築くにあたって、茶臼山の東から西へ緩やかに下がる地形を活かし、本丸を東側の最高所としたため、石垣は城内でも東側に集中して築かれました。よって、本丸地区が箇所数・面積ともに他の地区を圧倒しています。

＜石垣の箇所数と面積＞

地区名	箇所数（面）	面積（m ² ）
本丸地区	624	55,694.95
二の丸地区	99	7,769.74
古城地区	97	8,560.72
三の丸地区	143	6,776.76
千葉城地区	10	230.95
合計	973	79,033.12

(2) 重要文化財建造物

①国指定重要文化財

国指定重要文化財建造物は、往時の姿を今もとどめる特別史跡熊本城跡としての最も重要な文化財のひとつであり、震災前は、必要に応じ保存修理工事などを行っていました。

＜重要文化財建造物の概要＞

名 称	創建年代・構造形式	規 模（m ² ）	備 考
宇土櫓	慶長期・木造五階、本瓦葺	914.65	本丸地区
田子櫓	〃 ・木造単層、本瓦葺	49.96	本丸地区
七間櫓	〃 ・木造単層、本瓦葺	66.99	本丸地区
十四間櫓	〃 ・木造単層、本瓦葺	162.11	本丸地区
四間櫓	〃 ・木造単層、本瓦葺	46.49	本丸地区
源之進櫓	〃 ・木造単層、本瓦葺	108.40	本丸地区
東十八間櫓	〃 ・木造単層、本瓦葺	234.70	本丸地区

北十八間櫓	// ・木造単層、本瓦葺	144.37	本丸地区
五間櫓	// ・木造単層、本瓦葺	35.37	本丸地区
不開門	// ・木造櫓門、本瓦葺	59.70	本丸地区
平 櫓	// ・木造単層、本瓦葺	111.17	本丸地区
長 堀	// ・木造土堀、棧瓦葺	242.44m	本丸地区
監物櫓	// ・木造単層、本瓦葺	140.33	二の丸地区

熊本城には、櫓 11 棟、櫓門 1 棟及び長堀の計 13 棟の国の重要文化財に指定されている建造物が現存しています。所在は、監物櫓 1 棟が二の丸地区にある以外は、本丸地区にあります。明治 10 年（1877 年）の西南戦争の際の火災などにより、大小天守や本丸御殿などの中心的な建造物は現存していませんが、本丸地区を縁取るように重要文化財建造物が現存しています。

②県指定重要文化財

県指定重要文化財「旧細川刑部邸」が、平成 5 年（1993 年）に三の丸地区に移築復元されています。細川刑部家は初代藩主忠利の弟である刑部少輔興孝が興した家で、江戸時代には下屋敷として中央区子飼町にありました。

（３） 再建・復元建造物

建造物の復元整備は、昭和 35 年（1960 年）の天守閣の外観復元から始まりました。昭和 30 年代、40 年代の復元整備は外観のみの復元となっており、鉄筋コンクリート造やコンクリートブロック造で建てられていましたが、その後、昭和 56 年（1981 年）の西大手門からは木造による史料に基づく復元が行われるようになりました。

<復元建造物の概要>

名称	復元年	復元構造
天守閣	昭和35年度再建	鉄骨鉄筋コンクリート造
本丸御殿大広間	平成19年度復元	木造
長局櫓	平成19年度復元	木造
数寄屋丸二階御広間	平成元年度復元	木造
宇土櫓堀	平成元年度復元	木造
飯田丸五階櫓	平成16年度復元	木造
戌亥櫓	平成15年度復元	木造
西出丸堀	平成15年度復元	木造
西大手門	昭和56年度復元 平成15年度再復元	木造
南大手門	平成14年度復元	木造
元太鼓櫓	平成15年度復元	木造
奉行丸北側堀	平成15年度復元	木造

奉行丸西側塀	平成15年度復元	木造
未申櫓	平成15年度復元	木造
奉行丸南側塀	平成15年度復元	木造
奉行丸東側塀	平成15年度復元	木造
馬具櫓	平成26年度復元	木造
馬具櫓続塀	平成26年度復元	木造
櫓方門	昭和32年移築	木造
平御櫓・続塀	昭和35年度再建	コンクリートブロック造(一部木造)

(4) 史跡指定の変遷

史跡指定の変遷は以下の通りです。また令和5年(2023年)3月末現在の指定範囲は第1章「計画区域図」に示します。

- ・昭和8年(1933年)2月28日史跡指定
- ・昭和15年(1940年)8月14日追加指定(二の丸地区の一部を追加指定)
- ・昭和27年(1952年)2月4日名称変更(史跡熊本城から史跡熊本城跡に変更)
- ・昭和29年(1954年)7月30日追加指定(本丸・二の丸の旧軍用地を追加指定)
- ・昭和30年(1955年)12月29日追加指定及び特別史跡指定
(竹の丸を追加指定するとともに史跡から特別史跡に昇格)
- ・昭和37年(1962年)4月16日一部指定解除
(城縁辺部の地形が大きく改変された箇所を指定解除)
- ・昭和58年(1983年)3月31日追加指定ならびに一部指定解除
(城縁辺部の石垣を追加指定し、県道拡幅箇所を一部指定解除)
- ・平成17年(2005年)3月2日追加指定(三の丸地区を追加指定)
- ・平成30年(2018年)10月15日追加指定(桜の馬場地区などを追加指定)
- ・令和元年(2019年)10月16日追加指定(千葉城地区を追加指定)

(5) 管理団体指定

昭和26年(1951年)に、史跡の管理団体として熊本市が指定されました。昭和40年以降に追加指定(一部解除)された区域については、官報告示はされていませんが、令和5年(2023年)3月現在で指定されている全域を熊本市が管理しています。ただし、独立行政法人国立病院機構熊本医療センターや加藤神社など国・県・民間の管理地についてはその限りではありません。

(6) 都市公園としての管理

昭和37年(1962年)に都市計画決定された熊本城公園についても熊本市が管理運営を行っています。

3. 熊本城の被害状況

熊本地震により、熊本城は全域的に甚大な被害を受けました。

その被害は、倒壊・崩落・一部損壊等を含め重要文化財建造物 13 棟及び再建・復元建造物 20 棟（以下「建造物等」という。）のすべてが被災し、石垣は全体の約 3 割に当たる約 23,600 m²に崩落や膨らみ・緩みなど修復を要する箇所が見受けられるほか、便益施設等 26 棟も屋根や壁が破損し、地盤についても約 12,345 m²に陥没や地割れが発生するなど熊本城全域に及びます。

＜地震による被害状況＞

平成 28 年（2016 年）4 月 14 日 21 時 26 分「前震 M6.5」後

種類	被害数量	内容
重要文化財建造物（国指定）	10 棟	長塀 80m 崩壊、9 棟は瓦・外壁落下など
再建・復元建造物	7 棟	天守閣瓦落下、壁ひび、塀崩落など
石垣	崩落 6 箇所	膨らみ・緩み多数

平成 28 年（2016 年）4 月 16 日 1 時 25 分「本震 M7.3」後

種類	被害数量	内容
重要文化財建造物（国指定）	13 棟	倒壊 2 棟、一部倒壊 3 棟。他は屋根・壁破損など
再建・復元建造物	20 棟	倒壊 5 棟。他は下部石垣崩壊、屋根・壁破損など
石垣	崩落・膨らみ・緩み 517 面 （うち崩落 50 箇所、229 面）	約 23,600 m ² （全体の 29.9%） うち崩落約 8,200 m ² （全体の 10.3%）
地盤	陥没・地割れ 70 箇所	約 12,345 m ²
便益施設・管理施設	26 棟	屋根・壁破損など

※県指定重要文化財「旧細川刑部邸」も外壁・建具・塀などが破損

熊本城全体の石垣：973 面、約 79,000 m²

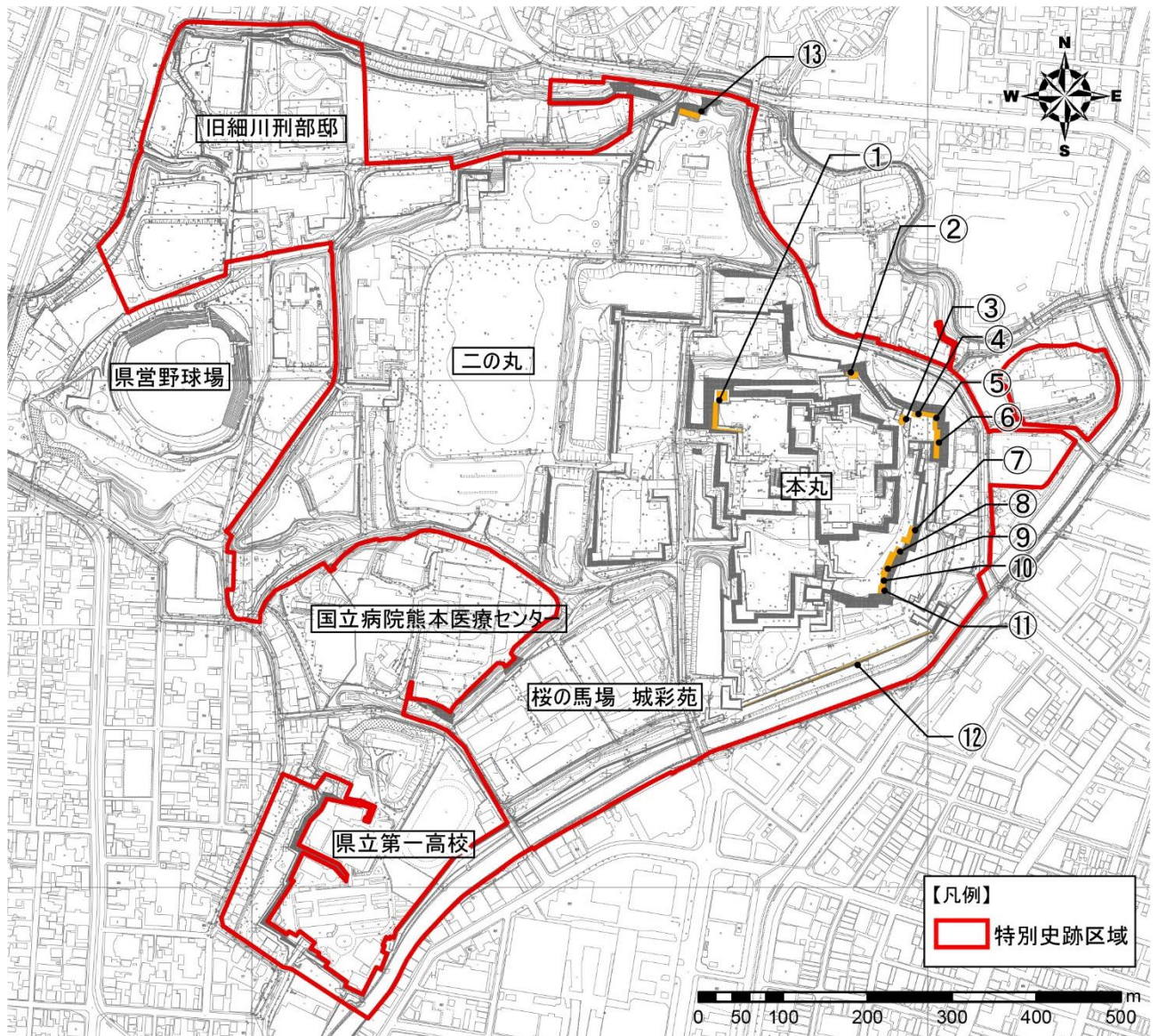
特別史跡熊本城跡の土地面積：約 512,000 m²

(1) 重要文化財建造物（国指定）

<重要文化財被災箇所一覧表>

番号	被災箇所	被害状況	歴史、名称の由来、使途等
①	宇土櫓	五階櫓屋根・外壁・建具破損、続櫓倒壊	慶長年間の創建か。昭和2年（1927年）、解体修理。平成元年（1989年）、半解体修理。
②	平櫓	屋根・外壁・下屋部分破損、倒壊のおそれ	慶長年間の創建か。昭和28年（1953年）、解体修理。昭和52年（1977年）、部分修理。
③	不開門	一部倒壊（櫓倒壊、門ゆがみ）	慶長年間の創建。慶応2年（1866年）の棟札から、この時再建または大修理を実施か。昭和2年に屋根替え実施。昭和32年（1957年）、解体修理。昭和55年（1980年）、部分修理。
④	五間櫓	建物傾斜、屋根・外壁破損	慶長年間の創建か。昭和36年（1961年）、解体修理。昭和58・59年（1983・84年）、部分修理。
⑤	北十八間櫓	倒壊	慶長年間の創建か。その後長い年月の間修理が繰返され、昭和37年（1962年）の解体修理の際に当初の状態に戻され現在に至る。昭和58・59年、部分修理。
⑥	東十八間櫓	倒壊	慶長年間の創建か。文久元年（1861年）の棟札から、この時再建又は大きな修理が行われたとみられる。昭和37年、解体修理。昭和58・59年、部分修理。
⑦	源之進櫓	屋根・外壁破損	慶長年間の創建か。安政6年（1859年）の棟札から、この時再建又は大きな修理が行われたとみられる。昭和32・33年、解体修理。昭和54年度、部分修理。
⑧	四間櫓	屋根・外壁破損	慶長年間の創建か。慶応2年（1866年）、再建または大修理。軍時代に補強改変され、昭和34年（1959年）の解体修理で復旧。昭和56年（1981年）、部分修理。
⑨	十四間櫓	屋根・外壁破損	慶長年間の創建か。天保15年（1844年）再建または大修理。軍時代に補強改変され、昭和34年の解体修理で復旧。昭和56年、部分修理。
⑩	七間櫓	建物傾斜、屋根・外壁破損	慶長年間の創建か。安政4年（1857年）、修理。軍時代に床構造を補強する改変があったが、昭和33年（1958年）の解体修理の際に当初の状態に戻され現在に至る。昭和56年、部分修理。
⑪	田子櫓	建物傾斜、屋根・外壁破損	慶長年間に創建か。慶応元年（1865年）に再建又は大きな修理が行われたとみられる。昭和2年、屋根替。昭和33年、解体修理。昭和56年、部分修理。
⑫	長堀	一部倒壊、倒壊部分以外も傾斜	加藤時代の創建。西南戦争頃に一時撤去され、その後、陸軍によって復旧されたとみられる。明治22年（1889年）の地震では石垣崩落の記録あり。昭和28年（1953年）、西側部分82m倒壊。昭和29・30年、復旧・解体修理。昭和34年、昭和53年（1978年）、部分修理。
⑬	監物櫓	建物傾斜、外壁破損	安政7年（1860年）棟札から、この時再建または大修理か。昭和29年（1954年）、解体修理。昭和53年度、部分修理。

<重要文化財建造物被害箇所図全体図>





①宇土櫓



①宇土櫓（内部）



①宇土櫓（内部）



②平櫓



③不開門



④五間櫓



⑤北十八間櫓



⑥東十八間櫓



⑦源之進櫓



⑧四間櫓



⑨十四間櫓 ⑩七間櫓



⑨十四間櫓（内部） ⑩七間櫓（内部）



⑩七間櫓（内部）



⑪田子櫓



⑫長堀



⑬監物櫓

○県指定重要文化財「旧細川刑部邸」

県指定重要文化財建造物である「旧細川刑部邸」は、外周にある塀のほとんどが倒壊や傾斜しています。土蔵では外壁にひび割れや剥離があり一部では落下しています。主屋も外壁の壁漆喰がいたるところで破損し、内部でも壁漆喰の落下や建具内装の破損があります。



旧細川刑部邸 外壁



旧細川刑部邸 室内

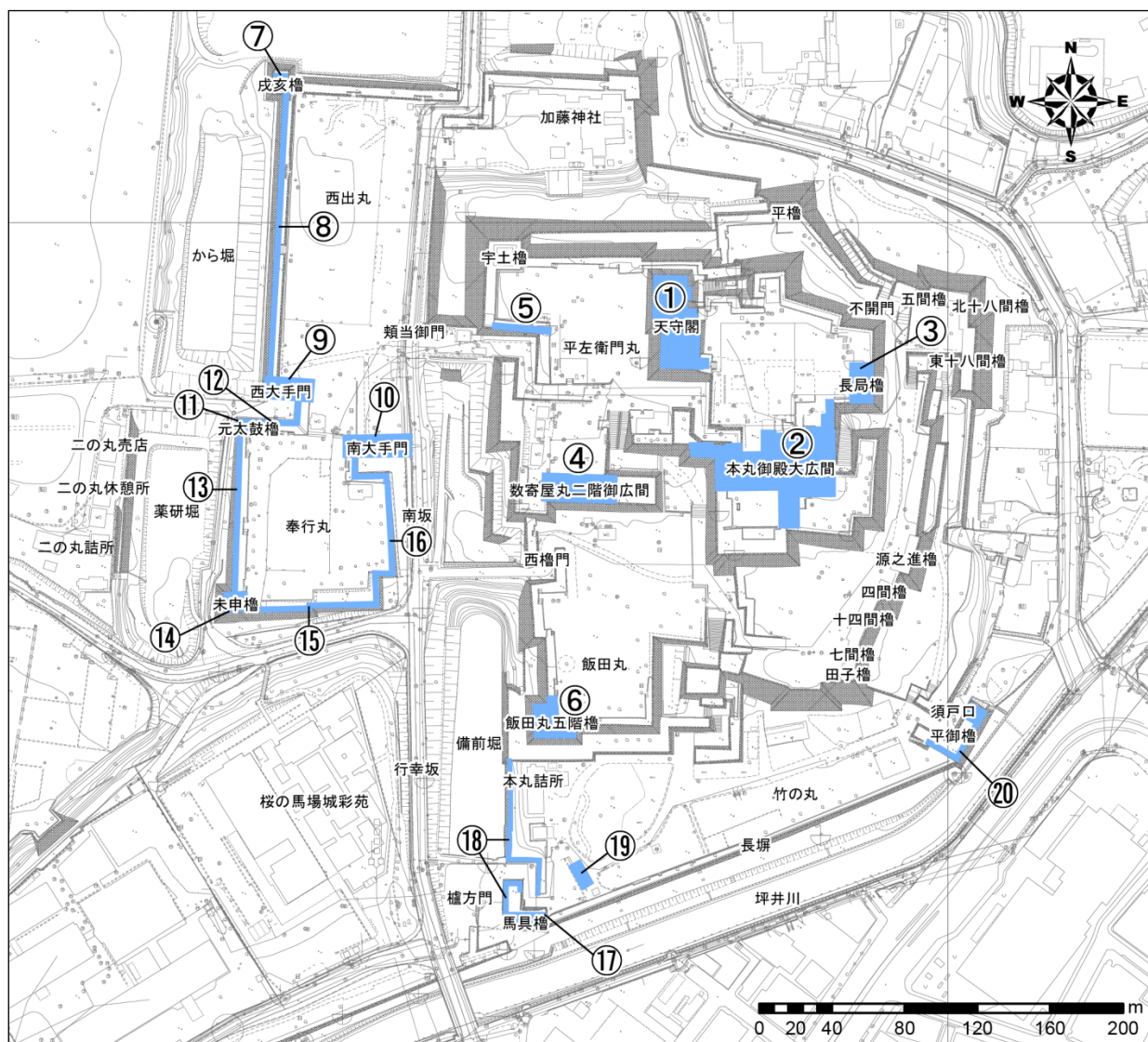
(2) 再建・復元建造物

＜再建・復元建造物被災箇所一覧表＞

番号	被災箇所	被害状況	歴史、復元の時期
①	天守閣	屋根破損、下部石垣一部崩落	大小天守ともに明治 10 年（1877 年）2 月 19 日に焼失。昭和 35 年（1960 年）に外観復元。
②	本丸御殿 大広間	外壁破損、地盤面沈下による上段ノ間不陸及び数寄屋棟変形	大広間は慶長 15 年（1610 年）頃に完成か。明治 10 年（1877 年）2 月 19 日に焼失。（大広間棟・大台所棟・数寄屋棟）平成 20 年（2008 年）、復元。
③	長局櫓	外壁破損、建物下部地割れ	慶長年間に建築されたと考えられる。明治 10 年（1877 年）2 月 19 日に焼失。平成 20 年、外観復元。
④	数寄屋丸 二階御広間	外壁ひび割れ、建造物たわみ、倒壊のおそれ	明治初期（西南戦争以前）に陸軍によって櫓は撤去された。平成元年（1989 年）、復元。
⑤	宇土櫓塀	倒壊	明治初期に撤去され、平成元年（1989 年）の宇土櫓の修理に伴って復元された塀。
⑥	飯田丸五階櫓	外壁ひび割れ、建造物たわみ、倒壊のおそれ	明治初期に陸軍によって撤去。西南戦争時は櫓跡に砲台が置かれ、その関係で内側の石垣が撤去されたと考えられる。平成 17 年（2005 年）、復元。
⑦	戌亥櫓	外壁ひび割れ、建造物たわみ、倒壊のおそれ	記録には、棟札に慶長 7 年（1602 年）に西出丸の大黒櫓（戌亥櫓）が完成とある。明治初期に櫓が解体され、平成 15 年（2003 年）、復元。
⑧	西出丸塀	倒壊	明治初期に石垣と共に塀が撤去された。平成 16 年（2004 年）復元。
⑨	西大手門	外壁ひび割れ、建造物たわみ・傾き、倒壊のおそれ	明治初期に石垣とともに櫓門も撤去。昭和 56 年（1981 年）、復元。平成 11 年（1999 年）、台風により櫓部分倒壊。平成 15 年、復元。
⑩	南大手門	外壁ひび割れ、建造物たわみ・変形、倒壊のおそれ	軍時代に撤去。平成 14 年（2002 年）、復元。
⑪	元太鼓櫓	外壁ひび割れ、建造物傾き・変形、倒壊のおそれ	軍時代に撤去。平成 15 年（2003 年）、復元。
⑫	奉行丸北側塀	倒壊	軍時代に撤去。平成 15 年（2003 年）、復元。
⑬	奉行丸西側塀	倒壊	軍時代に撤去。平成 15 年（2003 年）、復元。
⑭	未申櫓	外壁破損	明治初期に櫓が撤去。平成 15 年（2003 年）、復元。
⑮	奉行丸南側塀	控え石柱一部破損、傾き	明治 22 年（1889 年）地震の際は土台となった石垣が、上部の櫓とともに崩落。平成 15 年（2003 年）、復元。
⑯	奉行丸東側塀	一部倒壊	軍時代に撤去。平成 16 年（2004 年）、復元。
⑰	馬具櫓	外壁ひび割れ、南面石	西南戦争以前に陸軍によって解体。昭和 41 年

		垣一部崩壊	(1966 年)、コンクリートブロックで再建。 平成 26 年 (2014 年)、木造復元。
⑱	馬具櫓続塀	一部倒壊	軍時代に撤去。平成 26 年 (2014 年)、復元。
⑲	櫓方門	外壁破損	櫓方会所のあった曲輪 (現加藤神社) にあった 門だが、昭和 29 年 (1954 年) に半崩壊状 態になり、同 30 年 (1955 年) に解体保存。 同 33 年 (1958 年) に竹の丸に復旧され、 同 35 年 (1960 年) に現位置に移転した。
⑳	平御櫓・続塀	屋根瓦一部落下	軍時代に撤去。昭和 35 年 (1960 年)、コン クリートブロックで再建。

<再建・復元建造物被害箇所図全体図>





①天守閣（北より）



①天守閣（東より）



②本丸御殿大台所



②本丸御殿昭君之間



②本丸御殿数寄屋



③長局櫓



④数寄屋丸二階御広間



⑤宇土櫓塀



⑥飯田丸五階櫓



⑦戌亥櫓



⑧西出丸塀



⑨西大手門



⑩南大手門



⑪元太鼓櫓



⑫奉行丸北側塀



⑬奉行丸西側塀



⑭ 未申櫓



⑮ 奉行丸南側堀



⑯ 奉行丸東側堀



⑰ 馬具櫓



⑱ 馬具櫓続堀



⑲ 櫓方門



⑳ 平御櫓続堀



㉑ 平御櫓

(3) 石垣

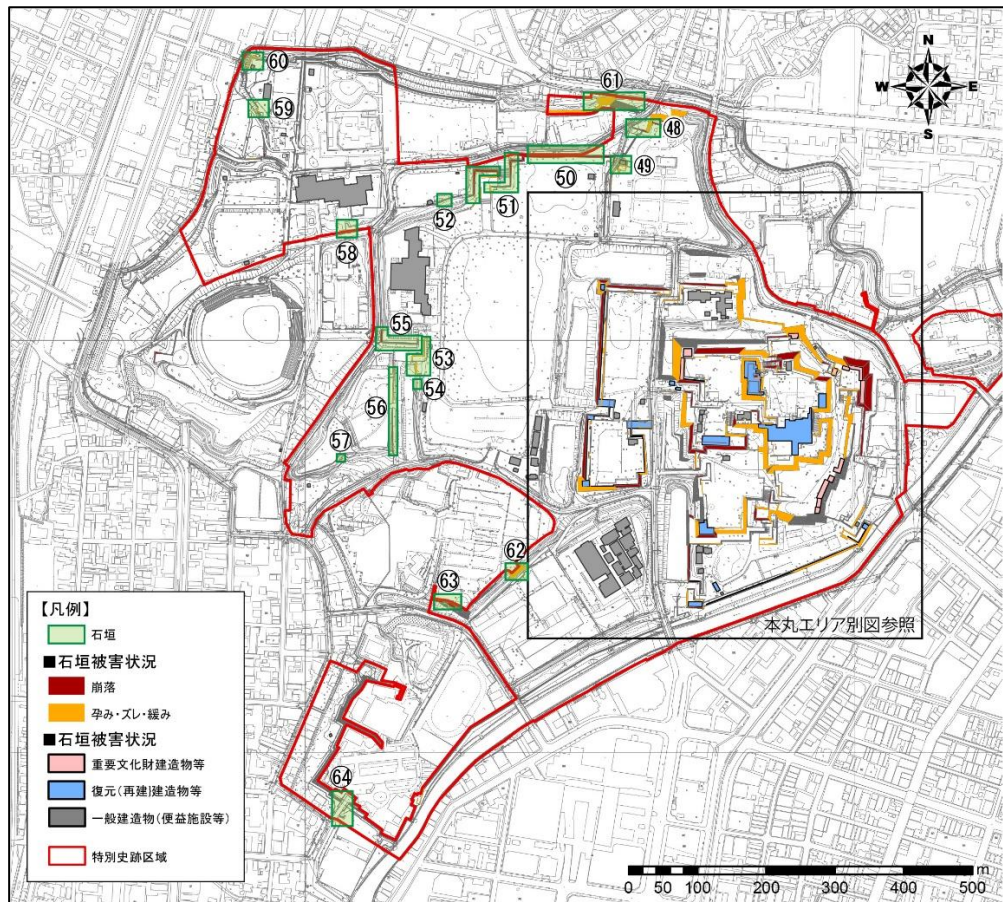
＜石垣被災箇所一覧表＞

番号	被災箇所	被害状況	石垣の築造・修理の歴史等
①	西出丸北側石塁	外面 100m崩落 内面 3箇所崩落	慶長期の石垣。明治 22 年（1889 年）地震で一部崩落し軍が修理。
②	戌亥櫓台石垣	北面・東面の崩落 櫓倒壊の恐れあり	慶長 7 年（1602 年）に西出丸の大黒櫓（戌亥櫓）が完成の記録あり。
③	西出丸西側石塁	外面北側 30mの崩落 内面石垣の傾き	慶長 7 年頃に西出丸は曲輪として成立。西面石塁は、明治初期に根石付近まで撤去され、昭和 40 年代に復元。
④	西大手門櫓台石垣	東側櫓台と南側石塁の崩落	明治初期に櫓門とともに石垣も撤去。昭和 50 年代に復元。
⑤	元太鼓櫓台石垣	櫓台と東側石塁の崩落	明治 22 年地震で南側石塁が崩落し、軍によって修理。
⑥	奉行丸西側石塁	外面・内面の全長が崩落	石垣は慶長年間に成立
⑦	南大手門櫓台石垣	東西の櫓台の一部崩落 や膨らみ、緩み	石垣、門ともに慶長年間の成立。櫓門や土台となった石垣は近代に入り撤去され、平成 9 年（1997 年）に復元された。
⑧	奉行丸南東隅石垣	隅角の崩落、膨らみ	南面は明治 22 年の地震で崩落し、軍が南面と東面を修理。上部は平成 8 年に復元整備。
⑨	（重文） 宇土櫓、続櫓台石垣	続櫓南端の崩落・膨らみ 石垣上面全体が沈下	慶長期の石垣。明治 22 年に崩落し、軍が修理。
⑩	数寄屋丸御門 周辺石垣	通路両面石垣の崩落や 緩み	通路の大半の石垣は明治 22 年地震の際に崩落し、軍によって修理。
⑪	平左衛門丸 北側石塁	北面 1 箇所、南面 3 箇所の崩落、膨らみ	明治 22 年地震で一部崩落、軍によって修理。平成 24 年（2012 年）に石垣修理。
⑫	大小天守台石垣	大天守は出入口の崩落 と穴蔵内面の崩落。小天守は東面・北面の一部崩落や変形、穴蔵の崩落。	慶長初期の石垣。明治 10 年、火災で被熱。明治 22 年地震で穴蔵内部等が崩落し、陸軍によって修理。昭和 35 年（1960 年）に鉄骨鉄筋コンクリートで再建。
⑬	地囃石（数寄屋丸出入口）	北面・南面の一部石材の落下、詰石の脱落。	昭和 55 年度に石垣の張出しのため補修。
⑭	数寄屋丸二階 御広間土台石垣	復元建物床下の一部崩落	慶長期の石垣。曲輪側の石垣は平成 2 年（1990 年）に復元。
⑮	数寄屋丸五階櫓台石垣	櫓台外面及び穴蔵内面の石垣の崩落	明治 22 年地震による膨らみの記録あり。
⑯	地蔵門南側石垣	東面・南面の崩落 周辺の膨らみ大	近代に積み直されている。膨らみが大きかった南面は 5 月 9 日頃に崩落。
⑰	耕作櫓門（売店東） 周辺石垣	東面・西面の崩落 売店背後石垣の崩落	明治 22 年の地震で崩落し、耕作櫓門東側の上部石垣は御天守廊下台とあわせて撤去された可能性あり。
⑱	本丸御殿間御門 前石垣	門前の右手石垣の崩落	明治 22 年地震で崩落し、軍によって修理。
⑲	本丸御殿大広間 周囲石垣	九曜の間床下通路の焼損 石垣の一部損壊など	慶長期の石垣。明治 10 年の火災で被熱。明治 22 年地震の際、間御門通路内で 4 箇所崩落。その後、軍によって修理。
⑳	一之関御門前石垣	石材の剥離落下、膨らみ	慶長期の石垣であるが、明治 10 年の火災で被熱し脆弱となった石材の損耗が顕著。
㉑	東三階櫓台石垣	櫓台北東隅石が緩み、北面に膨らみ、石垣上面に沈下、地割れ	明治 22 年地震で北面上部が膨らみ、軍によって修理されたとみられる。

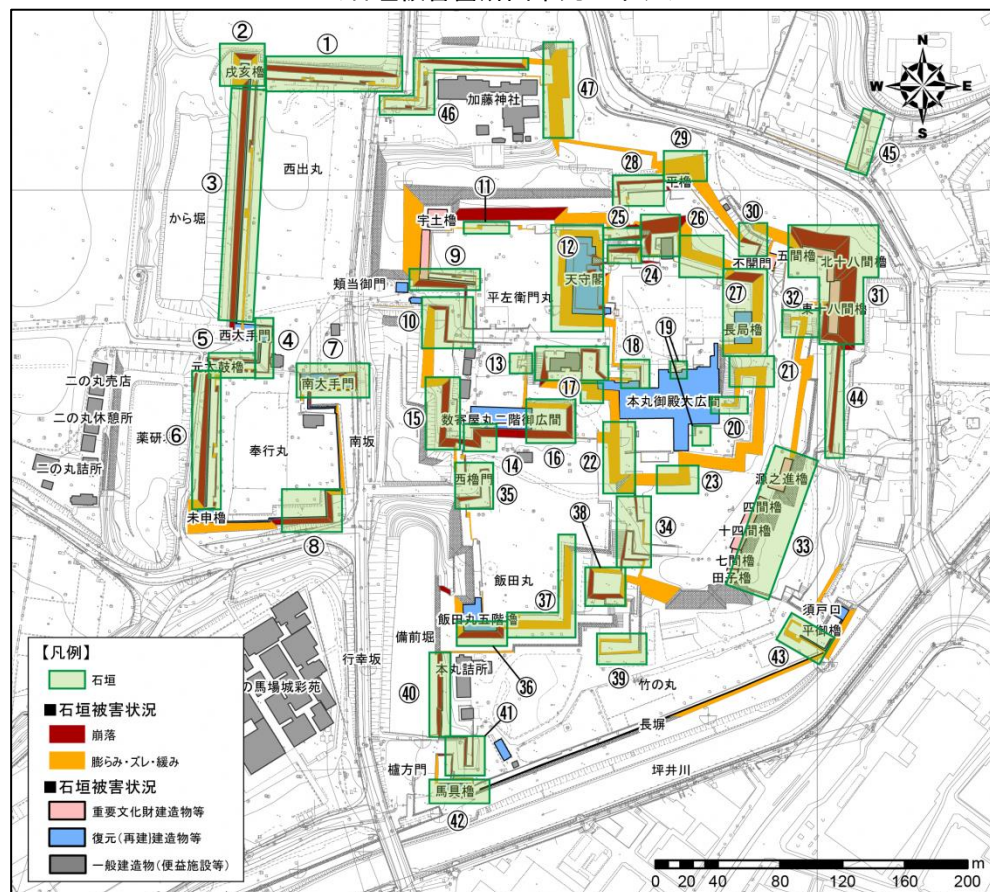
㉔	本丸御殿西廊下・小広間三階櫓台石垣	石垣上面全体の沈下 詰石の一部崩落	二様の石垣のうち西側石垣は経年的に沈下しつづけていたもので、今回の地震では御殿上段の間の不陸の原因となる。
㉕	小広間櫓台石垣	南東隅石の変形、詰石の脱落、膨らみ・凹み	慶長初期の石垣。
㉖	トキ櫓台石垣	穴蔵に複数の地割れが発生し櫓台北側が崩落	元禄 15 年（1702 年）の修理願いあり。同時修理の石門に修理銘がある。
㉗	北埋門ノ上居櫓台石垣	北面・南面が大きく崩落	元禄 15 年の修理願いあり。石塁のほとんどが崩落し埋門（石門）を覆う
㉘	裏五階櫓台石垣	西面・北面の崩落	古式の積み方の石垣で穴蔵を持つ櫓台。
㉙	長局櫓台石垣 本丸北輪居櫓台石垣	複数の地割れが発生し本丸北東部が陥没して石垣の隅部分が崩落	裏五階櫓台に遅れて築造された慶長期中頃の石垣。
㉚	平櫓西側石塁	外面の崩落、内面の緩み	享保 4 年（1719 年）の修理願いあり。
㉛	（重文）平櫓台石垣	櫓直下の石垣天端の内側への傾斜・膨らみ 櫓倒壊の恐れ	高さ 19m の高石垣。
㉜	不開門前石垣	門前の通路の石垣全体におよぶ崩落	天明 2 年（1782 年）、門の北側石垣下の膨らみによる修理願いあり。明治 22 年地震で一部崩落、軍によって修理。
㉝	（重文）北十八間櫓・東十八間櫓石垣	櫓台のほぼ全域におよぶ大規模な崩落・崩壊	東十八間櫓は石塁部分が全て崩落。石垣下の神社建物を潰す。
㉞	東櫓門櫓台石垣	隅石の変形、膨らみ	本丸東側の出入口で慶長初期の石垣。
㉟	東竹の丸櫓群土台石垣	石垣の一部沈下や地割れ	櫓のうち、特に田子櫓と七間櫓で傾きが顕著で、石垣に沈下があるが外観上大きな変化は観察されない。
㊱	東竹の丸西口周辺石垣	西口北側と南側石垣の崩落	慶長期の石垣。宝永 6 年（1709 年）に階段東側の石垣の膨らみによる修理願いあり。
㊲	西櫓御門周辺石垣	通路両面石垣の崩落	明治 22 年地震では南側石垣にある埋門が崩壊し軍によって修理。
㊳	飯田丸五階櫓台石垣	前震で南面の一部崩落 本震で崩落が拡大し東面も崩落	明治初期に櫓は撤去され、西南戦争時には砲台として利用された。明治 22 年地震の際、南側半分が大きく崩落し、軍によって修理。
㊴	飯田丸の南面・東面石垣、要人櫓台石垣	膨らみ・沈下 地割れ	南面上部は石積み技術から明治 22 年地震で崩落し積み直しされたもの。
㊵	竹の丸五階櫓台石垣	南西隅角の一部崩落	裏込栗石沈下及び角石の亀裂で昭和 50 年度に修理。
㊶	元札櫓門櫓台石垣	櫓台上面の沈下や石垣西面・南面の膨らみ	連続虎口の最初の石塁で、石垣の様子から数度の積み直しが推定される。経年による膨らみや間詰石落下で平成 15 年度に修理。
㊷	竹の丸西側石塁	前震で 12m が崩落し本震でほぼ全長が崩落	備前堀に面した石垣で慶長期の成立。寛政 2 年（1790 年）、石垣の膨らみによる修理願いあり。
㊸	山崎口通路（櫓方料金所）周辺石垣	通路内面の一部崩落や膨らみ	加藤時代に石垣が成立。通路東側の石垣は天明 2 年（1782 年）に膨らみによる修理願いあり。（今回の崩落箇所でない）。
㊹	馬具櫓櫓台石垣	南面の崩落 緩み、詰石の脱落	山崎口の南側、坪井川に面した櫓台で、16 日の本震によって長さ 12m ほどの膨らみが確認されていた。平成 28 年（2016 年）5 月 10 日午後 1 時 56 分に崩落。
㊺	須戸口周辺石垣	上面の沈下・地割れ 石段の沈下による変形	本丸東南の出入口で加藤忠広時代の築造。
㊻	東十八間櫓南石垣	地割れ・崩落	寛永 10 年（1633 年）に大雨で崩落し修理される。

④⑤	千葉城北西地区の石垣	東面石垣の全体崩落	中間に石垣の隅部があり、北側は後世に積み足された可能性が大きい。
④⑥	北大手門周辺石垣	北側石垣全体の崩落 通路側石垣に膨らみ	明治 22 年地震で崩落し、軍が修理。崩落した内壁石材に観音菩薩像彫刻の一部を確認。
④⑦	櫓方三階櫓石垣	天端周辺などに膨らみや緩み、地割れ	文政 3 年（1820 年）の櫓台石垣修理願いあり。修理銘（「文政五年六月竣功」）あり。
④⑧	監物櫓南石垣	天端の一部崩落	明治 22 年地震で膨らみ、軍によって修理。
④⑨	埋門周辺石垣	一部崩落	軍による通路開鑿に伴う間知石の石積み。
⑤①	百間石垣	3箇所での崩落 天端周辺の膨らみ、緩み	慶長期の成立。明治 22 年地震で二ノ丸御門側などの上半部が崩落、軍によって修理。
⑤②	二の丸御門石垣	通路東側石垣や北側石塁北面、西側石塁西面の大規模崩落。	明治 22 年地震で膨らみ、軍によって修理。石塁の上面の地割れや裏込栗石の沈下が著しく、門の通路面には地割れが複数見られる。
⑤③	県立美術館北側石塁	一部損壊	近代とみられる高さ 1 m の石垣
⑤④	二の丸西口東側石垣（松井山城預櫓台）	石塁上面に地割れや沈下があり膨らみ顕著	加藤時代に成立した石垣。明治 22 年地震で崩落し軍によって修理。
⑤⑤	二の丸西空堀東斜面石垣	石材落下	石垣は空堀に下りる近現代のもの。
⑤⑥	二の丸西口西側石塁（宮内橋付近）	全長におよぶ大規模崩落	石垣は加藤時代に成立。細川家による空堀の埋立あり。明治 22 年地震で崩落し軍が修理。昭和 60・61 年、平成 14 年には解体修理。
⑤⑦	野鳥園東側石垣	一部崩落	一部に近代の石垣あり
⑤⑧	野鳥園南側石垣	一部崩落	斜面崩壊防止のための部分的石垣
⑤⑨	市立博物館南側石垣	一部崩落	現代の石積み
⑥①	テニスコート西側石垣	一部崩落	法面の成形をせずに築かれた石垣。
⑥②	森本儀太夫預櫓跡周辺石垣	公園整備石垣の沈下	櫓は明和 7 年（1770 年）に焼失。以降は再建されず、櫓台のみ残ったが、近現代に櫓跡も滅失。櫓台の南は宝永 6 年に修理か。
⑥③	古京町別館北側石垣	公園用石柵の落下 膨らみ、緩み、地割れ	新堀北櫓のための張出した櫓台がある。
⑥④	陸軍病院跡東石垣（国立病院機構熊本医療センター敷地）	高さ 4 m の法面石垣の一部崩落	江戸時代の絵図では土手に描かれる。明治 8 年（1875 年）頃の病院開設に伴う石垣の可能性。
⑥⑤	陸軍病院跡南石垣（国立病院機構熊本医療センター）	市道に面した一部石垣の崩落	石垣下や周辺に近代の石垣が混在する。東隅は平成 27 年の台風で一部崩落。
⑥⑥	古城正面橋台石垣	北詰の橋台の崩落	古城の大手口となっていた橋の橋台

<石垣被害箇所図全体図>



<石垣被害箇所図本丸エリア>





①西出丸北側石垣の崩落



③西出丸西側石垣の崩壊



④西大手櫓台石垣の崩落



⑧奉行丸南東石垣の崩落



⑧奉行丸南東石垣の膨らみ



⑩頼当御門通路正面石垣の崩壊（西から）



⑩数寄屋丸御門石垣の崩壊（南から）



⑫小天守石垣北西隅の崩落・緩み



⑫ 小天守入口石垣の崩落



⑫ 大天守穴蔵石垣の崩落



⑫ 小天守穴蔵石垣の崩落



⑫ 小天守穴蔵石垣の崩落



⑳ 東三階櫓台石垣の膨らみ・緩み



㉑ 北埋門ノ上居櫓台の崩落（北から）



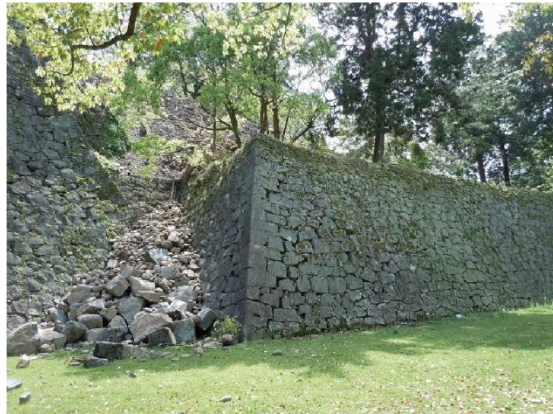
㉔ トキ櫓台と石門上部石壁の崩壊



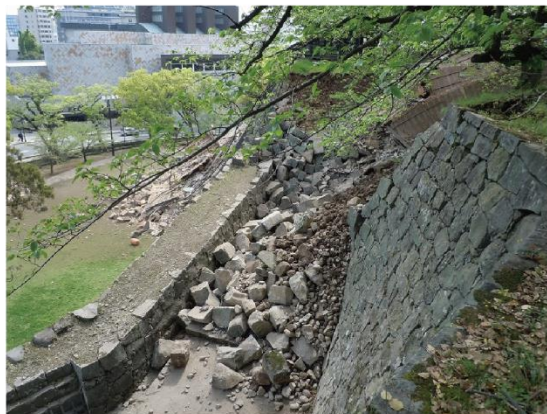
㉗ 本丸北輪居櫓台石垣の膨らみ



②⑦ 長局北側石垣の崩落



②⑧ 平櫓西側石垣の崩落



③⑩ 不開門前石垣の崩落



③⑥ 飯田丸五階櫓台石垣の崩落



③⑧ 竹の丸五階櫓石垣の崩壊



⑤⑩ 百間石垣の崩壊



⑤① 二の丸御門跡石垣の崩壊



⑤⑤ 二の丸西口西側石垣の崩落

(4) 地盤

今回の地震では城内の各地で石垣や斜面の背後に並行して走る地割れが確認されています。前震ではその大きさが最大でも数 cm 幅程度でしたが、本震では十数 cm 幅まで拡大し、その本数も格段に増加していました。

なお、建造物等の部材の回収後に、新たな地割れが確認されており、工事の進展に応じて地盤被害の件数は増えていくことが予想されます。



数寄屋丸五階櫓跡



数寄屋丸西側石垣



天守東側（トキ櫓跡）



本丸御殿大広間南側

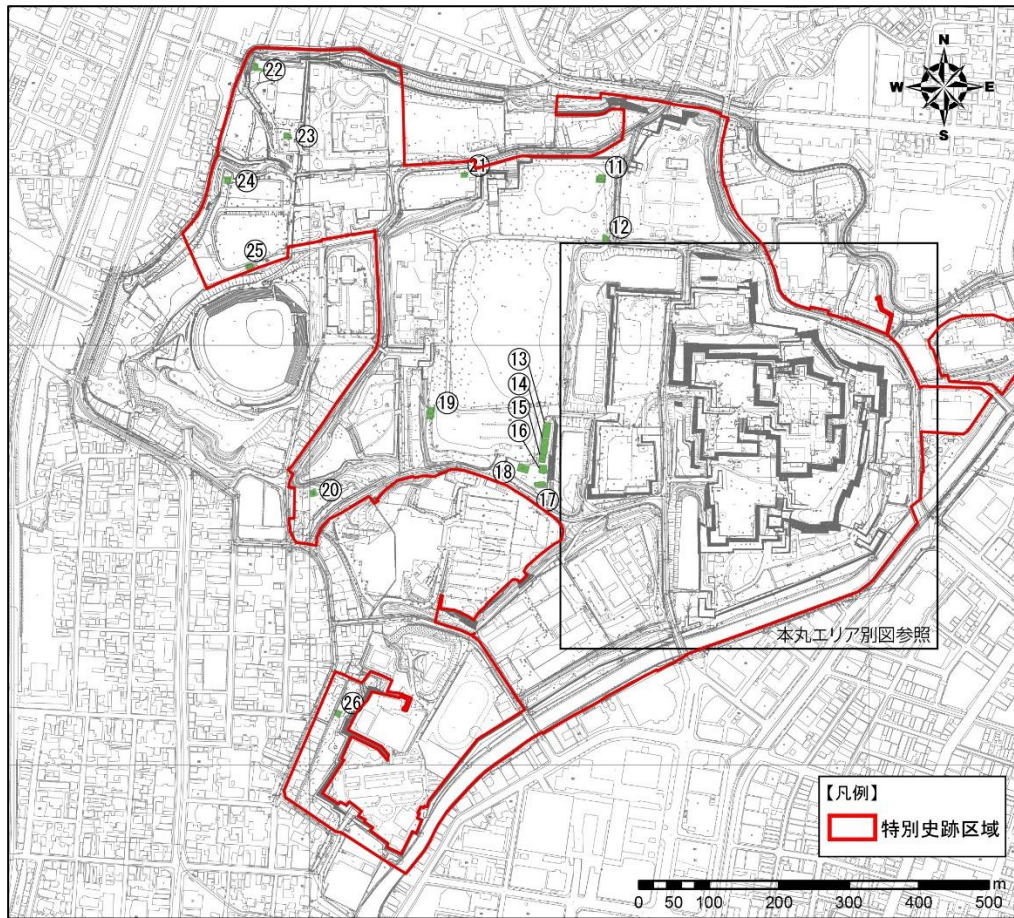
(5) 便益施設・管理施設の被害状況

＜その他建造物被災箇所一覧表＞

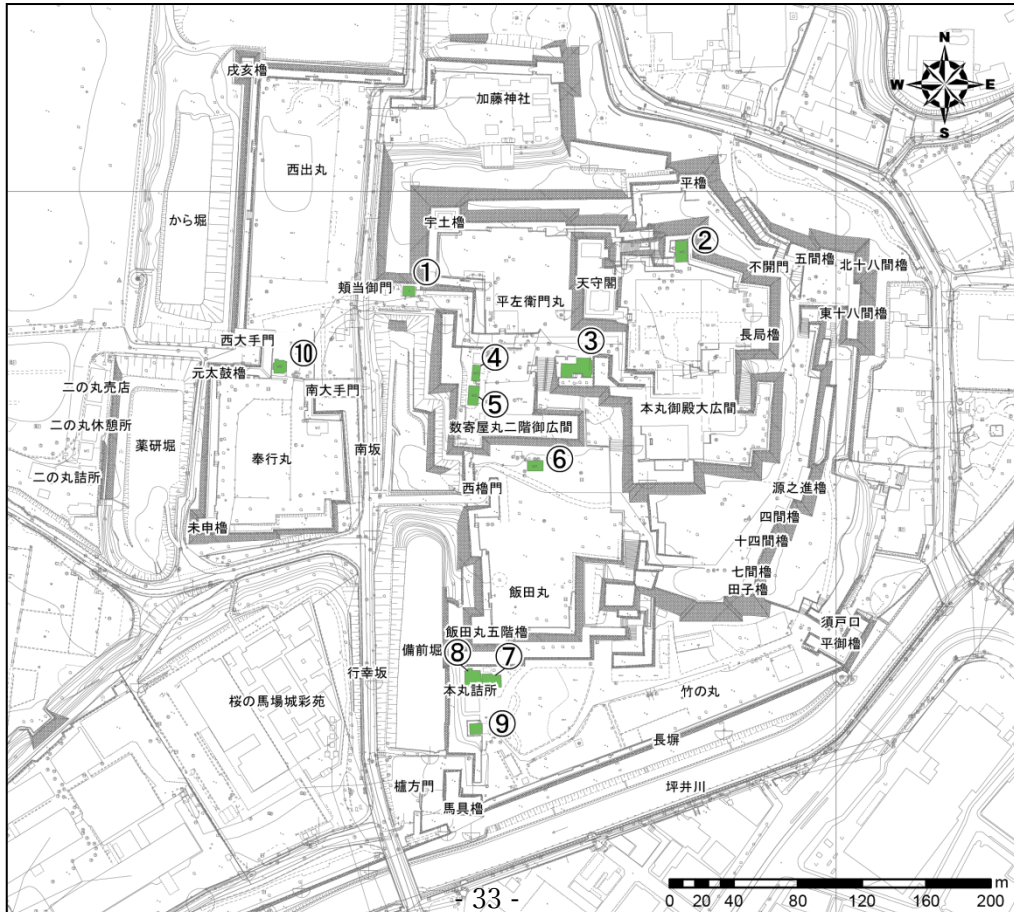
施設番号	名 称	被害状況	損傷部位
①	頼当御門料金所	破損	屋根瓦破損、棟瓦破損、壁漆喰ひび割れ
②	天守閣前トイレ	破損	内壁破損、北側地盤面亀裂有

③	宇土櫓前売店	破損	外壁被害、屋根瓦破損、内部天井破損、 建具破損
④	数寄屋丸トイレ	破損	屋根瓦破損、壁漆喰ひび割れ
⑤	数寄屋丸多目的トイレ・電気室	破損	屋根瓦破損、棟瓦破損
⑥	飯田丸トイレ・ポンプ室	破損	壁漆喰ひび割れ
⑦	本丸詰所	破損	棟瓦破損、雨樋破損
⑧	本丸詰所	破損	屋根瓦破損、雨樋破損
⑨	竹の丸トイレ	破損	屋根瓦破損、棟瓦破損、壁漆喰ひび割
⑩	西出丸トイレ	破損	外壁破損、建具破損
⑪	催し広場トイレ	破損	開口枠歪み
⑫	催し広場管理詰所	破損	壁漆喰ひび割れ
⑬	二の丸売店	地割れ	屋根瓦破損、棟瓦破損、壁漆喰割れ、 東側地盤面亀裂有
⑭	二の丸休憩所	地割れ	屋根瓦破損、棟瓦破損、壁漆喰割れ、 東側地盤面亀裂有
⑮	二の丸駐車場東棟トイレ	地割れ	屋根瓦破損、棟瓦破損、壁漆喰割れ、 東側地盤面亀裂有
⑯	二の丸詰所	地割れ	屋根瓦破損、棟瓦破損、壁漆喰割れ、
⑰	二の丸詰所・倉庫	破損	屋根瓦破損
⑱	二の丸駐車場南棟トイレ	破損	屋根瓦破損
⑲	二の丸駐車場西棟トイレ	破損	屋根瓦破損
⑳	清爽園トイレ	破損	屋根瓦、壁タイル破損
㉑	三の丸第一駐車場管理詰所	破損	屋根瓦破損
㉒	三の丸広場北側四阿	破損	屋根瓦破損、柱ひび割れ
㉓	三の丸広場北側トイレ	破損	屋根瓦破損
㉔	三の丸広場南側四阿	破損	屋根瓦破損
㉕	三の丸広場南側トイレ	破損	屋根瓦破損
㉖	古城堀端公園トイレ	破損	屋根瓦破損

<便益施設等被害箇所図全体図>



<便益施設等被害箇所図本丸エリア>





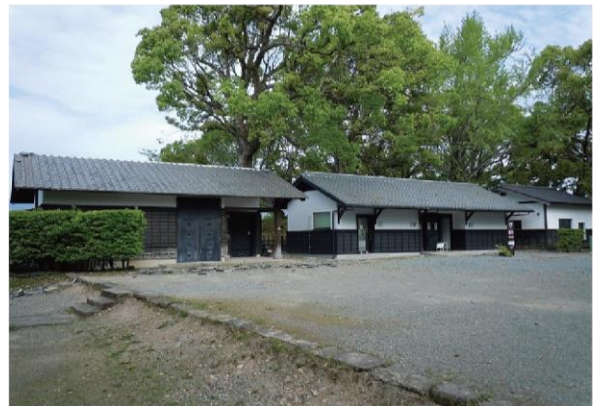
①類当御門料金所



②天守閣前トイレ



③宇土櫓前売店



④⑤数寄屋丸多目的トイレ・電気室、数寄屋丸トイレ



⑦⑧本丸詰所、本丸詰所



⑨竹の丸トイレ



⑩西出丸トイレ



⑪催し広場トイレ



⑫ 催し広場管理棟



⑬ 二の丸売店



⑭ 二の丸休憩所



⑮ 二の丸駐車場東棟トイレ



⑯⑰ 二の丸詰所、二の丸詰所・倉庫



⑱ 二の丸駐車場南棟トイレ



⑲ 二の丸駐車場西棟トイレ



⑳ 清爽園トイレ



②①三の丸第一駐車場管理詰所



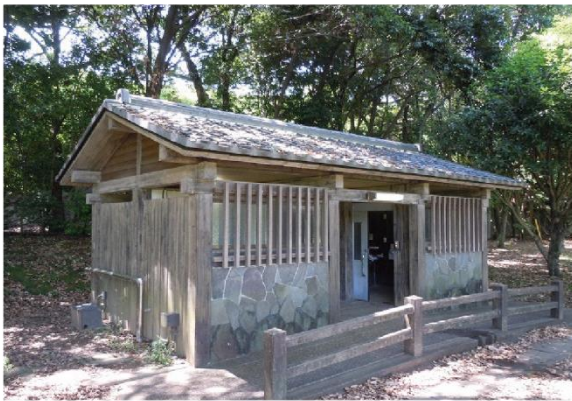
②②三の丸広場北側四阿



②③三の丸広場北側トイレ



②④三の丸広場南側四阿



②⑤三の丸広場南側トイレ



②⑥古城堀端公園トイレ

4. 熊本城の復旧状況

復旧基本計画に沿って着実に復旧工事を進め、令和5年（2023年）3月末時点で、天守閣と長堀の2棟の建造物が復旧完了しました。また既に復旧が完了したもの以外にも、多くの石垣や建造物についても復旧を進めているところです。便益施設・管理施設についても、公開エリアの拡大状況に応じて順次復旧を行っています。

（1）重要文化財建造物（国指定）

＜重要文化財建造物（国指定）復旧状況＞ ※令和5年（2023年）3月末時点

番号	被災箇所	復旧状況	
①	宇土櫓	建造物	解体保存工事中
		石垣	復旧設計中
②	平櫓	建造物	令和元年度（2019年度）解体保存工事完了
		石垣	令和3年度（2021年度）解体完了 変更設計中
③	不開門	建造物	平成29年度（2017年度）解体保存工事完了
		石垣	平成30年度（2018年度）崩落石材回収完了
④ ～ ⑥	五間櫓、北十八間櫓、東十八間櫓	建造物	平成28年度（2016年度）崩落部材回収工事完了
		石垣	平成28年度（2016年度）崩落石材回収完了 復旧設計中
⑦ ～ ⑪	源之進櫓、四間櫓、十四間櫓、七間櫓、田子櫓	建造物	令和4年度（2022年度）復旧設計完了
⑫	長堀	令和3年（2021年）1月 復旧完了	
⑬	監物櫓	建造物	組立工事中
		石垣	令和3年度（2021年度）復旧完了



長堀復旧完了



監物櫓組立工事状況

○県指定重要文化財「旧細川刑部邸」

県指定重要文化財建造物である「旧細川刑部邸」は令和４年度までに復旧設計を実施するとともに、当該地の本質的価値に関わる情報収集のため文化財発掘調査を行いました。

(２) 復元・再建建造物

＜復元・再建建造物復旧状況＞ ※令和５年（２０２３年）３月末時点

番号	被災箇所	復旧状況	
①	天守閣	令和３年（２０２１年）３月 復旧完了	
②	本丸御殿大広間、 長局櫓	建造物	平成 28 年度（2016 年度）被害状況調査完了
③		石垣	復旧設計中
④	数寄屋丸 二階御広間	建造物	令和４年度（2022 年度）解体保存設計完了
		石垣	令和元年度（2019 年度）崩落石材一部回収完了
⑤	宇土櫓塀	建造物	平成 28 年度（2016 年度）部材回収工事完了
		石垣	平成 28 年度（2016 年度）崩落石材回収完了 復旧設計中
⑥	飯田丸五階櫓	建造物	平成 30 年度（2018 年度）解体保存工事完了
		石垣	復旧工事中
⑦	戌亥櫓 西出丸塀	建造物	令和４年度（2022 年度）解体保存工事完了
⑧		石垣	未着手
⑨	西大手門	建造物	平成 30 年度（2018 年度）解体保存工事完了
		石垣	令和元年度（2019 年度）崩落石材回収完了
⑩	南大手門	建造物	令和４年度（2022 年度）解体保存設計完了
		石垣	未着手
⑪	元太鼓櫓 奉行丸北側塀	建造物	平成 30 年度（2018 年度）解体保存工事完了
⑫		石垣	令和元年度（2019 年度）崩落石材回収完了
⑬	奉行丸西側塀	建造物	未着手
		石垣	未着手
⑭	未申櫓	建造物	令和４年度（2022 年度）被害状況調査完了
		石垣	未着手
⑮	奉行丸南側塀 奉行丸東側塀	建造物	令和元年度（2019 年度）解体保存工事完了
⑯		石垣	令和元年度（2019 年度）崩落石材一部回収完了
⑰	馬具櫓 馬具櫓続塀	建造物	令和４年度（2022 年度）完了解体保存工事完了
⑱		石垣	令和４年度（2022 年度）崩落石材回収完了
⑲	櫓方門	建造物	未着手
⑳	平御櫓・続塀	建造物	（続塀）平成 29 年度（2017 年度）解体工事完了
		石垣	平成 29 年度（2017 年度）安全対策完了



天守閣復旧完了



飯田丸五階櫓石垣復旧工事状況



馬具櫓解体保存工事完了



戌亥櫓解体保存工事完了

(3) 便益施設・管理施設

＜便益施設・管理施設復旧状況＞ ※令和5年（2023年）3月末時点

番号	被災箇所	復旧状況
①	頼当御門料金所	平成28年度（2016年度）解体完了
②	天守閣前トイレ	令和2年度（2020年度）解体完了
③	宇土櫓前売店	令和2年度（2020年度）解体設計完了
④	数寄屋丸トイレ	令和元年度（2019年度）復旧完了
⑤	数寄屋丸多目的トイレ・電気室	令和元年度（2019年度）多目的トイレ新設完了
⑥	飯田丸トイレ・ポンプ室	未着手（工事エリア内）
⑦ ⑧	本丸詰所	平成29年度（2017年度）解体完了
⑨	竹の丸トイレ	未着手（工事エリア内）
⑩	西出丸トイレ	令和元年度（2019年度）復旧完了
⑪ ⑫	催し広場トイレ 催し広場管理詰所	平成29年度（2017年度）復旧完了

⑬	二の丸売店	令和元年度（2019年度）新設完了（既存建物は解体）
⑭	二の丸休憩所	平成 29 年度（2017 年度）新設完了（既存建物は解体）
⑮ ～ ⑰	二の丸駐車場東棟トイレ 二の丸詰所 二の丸詰所・倉庫	平成 30 年度（2018 年度）解体完了
⑱ ～ ⑳	二の丸駐車場南棟トイレ 二の丸駐車場西棟トイレ 清爽園トイレ	平成 29 年度（2017 年度）復旧完了
㉑	三の丸第一駐車場管理詰所	令和元年度（2019 年度）復旧完了
㉒	三の丸広場北側四阿	平成 30 年度（2018 年度）解体完了
㉓	三の丸広場北側トイレ	平成 28 年度（2016 年度）復旧完了
㉔	三の丸広場南側四阿	平成 30 年度（2018 年度）復旧完了
㉕	三の丸広場南側トイレ	平成 28 年度（2016 年度）復旧完了
㉖	古城堀端公園トイレ	平成 29 年度（2017 年度）復旧完了



数寄屋丸多目的トイレ新設完了



二の丸売店解体・
二の丸仮設休憩所（北棟）新設完了